


Route  
足袋蔵  
A

# tabigura megori ① 栗代蔵 足袋まちづくり





## 栗代蔵

この間口5間・奥行3間の2階建ての土蔵は、「クリダイ」の名で親しまれている 栗原代八商店の白壁の美しい足袋蔵です。明治39年に日露戦争後の不景気で仕事を欲しがっていた職人に建てさせた、と伝えられています。栗原代八商店は、文化5年(1808)創業の老舗足袋商店で、「小町足袋」、「旗印足袋」の商標で手広く商売を営んでいました。



大工のむね・仕事で建てられた足袋蔵

### 足袋蔵まちづくり ミュージアム

「足袋蔵まちづくり」は、足袋蔵を多く建てたまちづくりのシンボルとして、足袋蔵の歴史や文化、そしてまちづくりの取り組みを紹介するミュージアムです。足袋蔵の歴史や文化、そしてまちづくりの取り組みを紹介するミュージアムです。

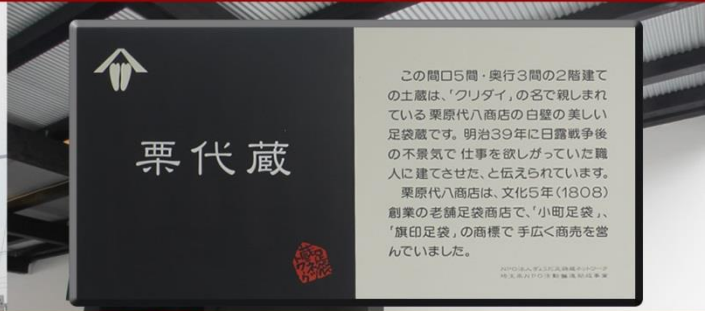




# tabigura megori ① 栗代蔵 足袋まちづくり



①足袋蔵まちづくりミュージアム  
(行田市観光ステーション)まちづくり情報センター。  
明治39年の栗原代八商店の足袋蔵を活用。



## 栗代蔵

この間口5間・奥行3間の2階建ての土蔵は、「フリタイ」の名で親しまれている栗原代八商店の白壁の美しい足袋蔵です。明治39年に日露戦争後の不景気で仕事を欲しがっていた職人に建てさせた、と伝えられています。栗原代八商店は、文化5年(1808)創業の老舗足袋商店で、「小町足袋」、「旗印足袋」の商標で手広く商売を営んでいました。

APC021  
足袋まちづくりミュージアム  
行田市観光ステーション



①足袋蔵まちづくりミュージアム  
(行田市観光ステーション)  
まちづくり情報センター。  
明治39年の栗原代八商店の足袋蔵を活用。







# ②保泉蔵



**保泉蔵**

この行田随一の蔵並みは、かつて行田一の足袋原料商であった保泉商店の足袋の原料倉庫群です。

保泉商店は明治35年に創業し、明治42年に手前側の土蔵を買い取って移転しました。そして大正5年に間口10間奥行3間の奥の土蔵を新築、昭和元年2月には大谷石の店蔵を、昭和7年には一番奥の石蔵を建設し、西側を塗り壁で繋いでこの蔵並みを完成させました。

**保泉蔵**

石蔵に囲まれた土蔵並みの美観

行田市の中心部、本町の城下町跡の中心部に、明治35年に創業した保泉商店の足袋原料倉庫群が残り、その美観が今も残っています。

この蔵並みを持つ保泉商店は、明治42年に手前側の土蔵を買い取って移転し、大正5年に間口10間奥行3間の奥の土蔵を新築、昭和元年2月には大谷石の店蔵を、昭和7年には一番奥の石蔵を建設し、西側を塗り壁で繋いでこの蔵並みを完成させました。

「社」での蔵並みを繋いだ保泉商店の足袋原料倉庫群は、昭和7年に大谷石の店蔵を、昭和7年には一番奥の石蔵を建設し、西側を塗り壁で繋いでこの蔵並みを完成させました。

## ②保泉蔵



足袋蔵 MAP



## ②保泉蔵







# tabigura megori

## ②保泉蔵



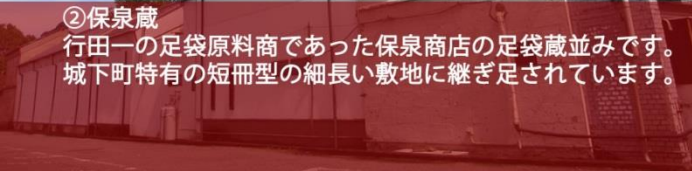
↑

### 保泉蔵

この行田唯一の蔵並みは、かつて行田一の足袋原料商であった保泉商店の足袋の原料倉庫群です。

保泉商店は明治35年に創業し、明治42年に手前側の土蔵を買い取って移転しました。そして大正5年に間口10間奥行3間の奥の土蔵を新築、昭和元年2月には大谷石の店蔵を、昭和7年に一番奥の石蔵を建設し、西側を塗り壁で繋いでこの蔵並みを完成させました。

行田一地区の歴史と文化を伝えるため、行田一地区の歴史と文化を伝えるため、行田一地区の歴史と文化を伝えるため。



②保泉蔵  
行田一の足袋原料商であった保泉商店の足袋蔵並みです。  
城下町特有の短冊型の細長い敷地に継ぎ足されています。

保泉蔵



②保泉蔵  
行田一の足袋原料商であった保泉商店の足袋蔵並みです。  
城下町特有の短冊型の細長い敷地に継ぎ足されています。

保泉蔵



route  
足袋蔵  
A

# tabigura megori ③ 翠玉蔵





route  
足袋蔵  
A

# tabigura meguri ③ 翠玉蔵

翠玉堂

②翠玉堂

かつては山田荒物店の昭和4年の商家建築の店舗。  
年代ごと変身し今はパン屋とイベント会場です。

翠玉堂



route  
足袋蔵  
A

# tabigura megori ④ 十万石



国登録有形文化財

## 十万石ふくさや 行田本店店舗

この店舗は、呉服商山田清兵衛商店の11代山田清兵衛(伊三郎)によって、明治16年7月16日に棟上されたもので、行田では珍しい江戸様式の店蔵です。昭和27年より足袋蔵となり、昭和44年に曳屋されて十万石の店舗となりました。その後なまこ壁が設けられ、平成24年の修理で白壁となりました。行田市を代表する重厚な店蔵で、国登録有形文化財に登録されています。

平成24年3月

行田市教育委員会



## 十万石ふくさや 行田本店店舗

足袋蔵 子方坊主を称するし漆繕体  
この店舗は、呉服商山田清兵衛商店の11代山田清兵衛(伊三郎)によって、明治16年7月16日に棟上されたもので、行田では珍しい江戸様式の店蔵です。昭和27年より足袋蔵となり、昭和44年に曳屋されて十万石の店舗となりました。その後なまこ壁が設けられ、平成24年の修理で白壁となりました。行田市を代表する重厚な店蔵で、国登録有形文化財に登録されています。



## ④ 十万石







# tabigura megori ④ 十万石



十万石ふくさや

国登録有形文化財

この店舗は、呉服商山田清兵衛商店の11代山田清兵衛（伊三郎）によって、明治16年7月16日に棟上されたもので、行田では珍しい江戸様式の店蔵です。昭和27年より足袋蔵となり、昭和44年に奥屋されて十万石の店舗となりました。その後なまこ壁が設けられ、平成24年の修理で白壁となりました。行田市を代表する重厚な店蔵で、国登録有形文化財に登録されています。

平成24年3月 行田市教育委員会

④ 十万石ふくさや行田本店（国登録有形文化財）  
銘菓「十万石饅頭」で知られる十万石の本店。  
明治16年建設の行田を代表する店蔵です。



十万石ふくさや



十万石ふくさや



④ 十万石ふくさや行田本店（国登録有形文化財）  
銘菓「十万石饅頭」で知られる十万石の本店。  
明治16年建設の行田を代表する店蔵です。



Route  
足袋蔵  
A

# tabigura megori ⑤ 小川源右衛門蔵



小川源右衛門蔵



この間口4間・奥行9間の2階建ての大谷石の石蔵は、近江商人の小川源右衛門商店（現在のカネマル酒店）の商品倉庫として、昭和2年に大塚石材の手で建てられたものです。  
行田では数少ない戦前の石蔵で、入り口部分の造りが舊性的な雰囲気を感じさせています。現在も商品倉庫として使用されており、行田を代表する石蔵と言える存在です。

行田町史編纂委員会 行田町史編纂部



足袋蔵MAP  
⑤ 小川源右衛門蔵

## ⑤ 小川源右衛門蔵



⑤ 小川源右衛門蔵



行田では大正時代以降土蔵の建物はほとんど見られず、昭和2年に建てられた小川源右衛門蔵は、戦前の石蔵として貴重な存在である。この石蔵は、大谷石で建てられ、入り口部分の造りが旧性的な雰囲気を感じさせています。現在も商品倉庫として使用されており、行田を代表する石蔵と言える存在です。



Route  
足袋蔵  
A

# tabigura megori ⑤ 小川源右衛門蔵

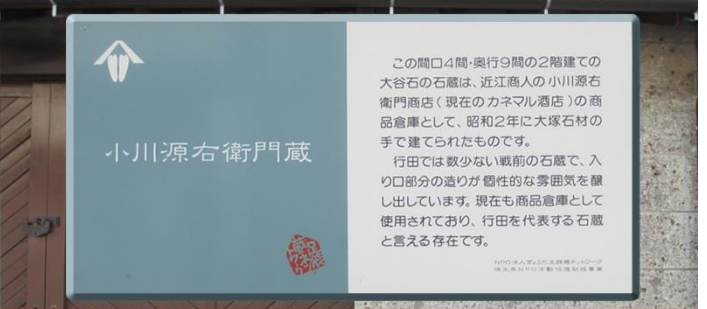
小川源右衛門蔵



小川源右衛門蔵



小川源右衛門蔵



小川源右衛門蔵







# tabigura megori ⑥ 今津蔵



↑

今津蔵 (今津印刷所)

今津印刷所は、元禄年間(1688~1703)創業と伝えられる老舗印刷所で、田山花袋の小説「田舎教師」の「行田印刷所」のモデルにもなっています。  
 嘉永年間(1848~1853)に棟上された間口3間・奥行6.5間の店蔵と、間口2間・奥行2.5間の味噌蔵が中庭を挟んで並んでいます。  
 店蔵は現存する市内最古級のもので、旧店舗部分が2階建てになっています。

今津印刷所は、元禄年間(1688~1703)創業と伝えられる老舗印刷所で、田山花袋の小説「田舎教師」の「行田印刷所」のモデルにもなっています。  
 嘉永年間(1848~1853)に棟上された間口3間・奥行6.5間の店蔵と、間口2間・奥行2.5間の味噌蔵が中庭を挟んで並んでいます。  
 店蔵は現存する市内最古級のもので、旧店舗部分が2階建てになっています。

小説「田舎教師」の舞台となる印刷所  
 今津蔵 (今津印刷所)

【今津印刷所】  
 〒1 048-554-2245  
 印刷部専用ダイヤル、内線番号あり。

江戸時代の元禄年間(1688~1703)創業と伝えられる老舗印刷所。田山花袋の小説「田舎教師」の「行田印刷所」のモデルにもなっています。嘉永年間(1848~1853)に棟上された間口3間・奥行6.5間の店蔵と、間口2間・奥行2.5間の味噌蔵が中庭を挟んで並んでいます。店蔵は現存する市内最古級のもので、旧店舗部分が2階建てになっています。



足袋蔵 MAP



## ⑥ 今津蔵







# tabigura meguri ⑥ 今津蔵



今津印刷所



今津印刷所は、元禄年間(1688~1703)創業と伝えられる老舗印刷所で、田山花袋の小説「田舎教師」の「行田印刷所」のモデルにもなっています。

嘉永年間(1848~1853)に棟上された間口3間・奥行6.5間の店蔵と、間口2間・奥行2.5間の味噌蔵が中庭を挟んで並んでいます。

店蔵は現存する市内最古級のもので、旧店舗部分が2階建てになっています。

行田市教育委員会 行田市歴史博物館

今津印刷所



⑥今津印刷所(今津蔵)  
江戸後期～末期の建設と思われる現存する行田最古の店蔵です。店舗後ろは"半蔵造り"になっています。  
江戸・元禄年間創業の老舗印刷所です。



今津印刷所







# tabigura meguri ⑦ 長井写真館



## ⑦ 長井写真館



足袋蔵 MAP



長井写真館 (Nagai Photo Studio)

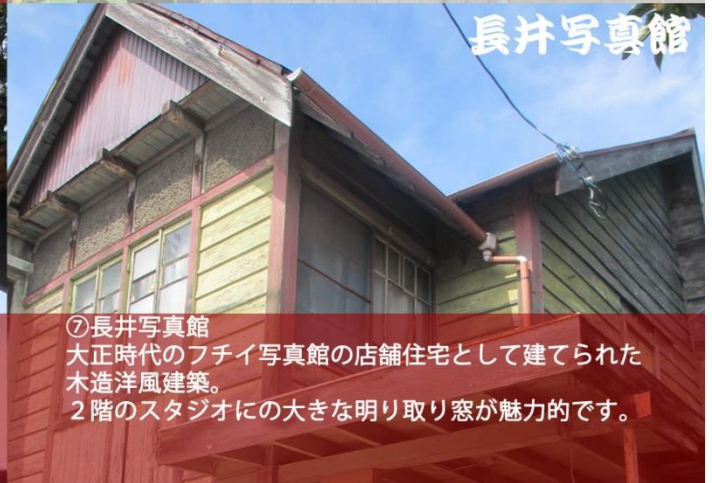
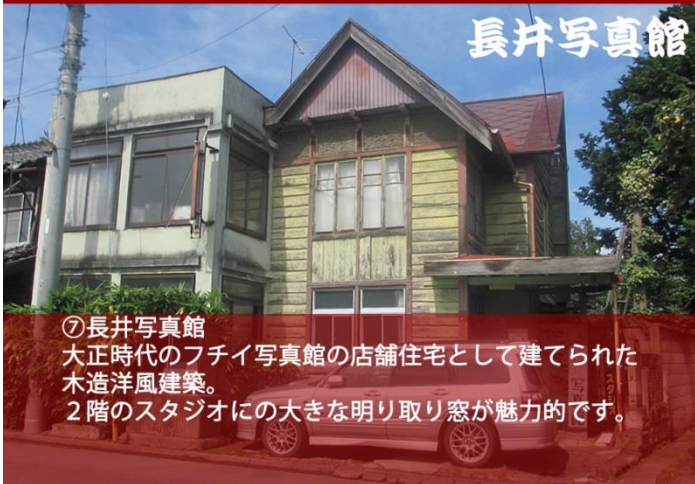
今津町の歴史ある長井写真館へ、2018年9月、撮影を兼ねて訪ねました。写真館の歴史は、大津市に始まり、長井市へと移り、現在は長井市にある長井写真館へと続いています。長井写真館は、大津市にあり、長井市へと移り、現在は長井市にある長井写真館へと続いています。長井写真館は、大津市にあり、長井市へと移り、現在は長井市にある長井写真館へと続いています。長井写真館は、大津市にあり、長井市へと移り、現在は長井市にある長井写真館へと続いています。

## ⑦ 長井写真館



⑦ 長井写真館









# tabigura megori ⑧イサミスクール工場



## イサミスクール工場

この工場はイサミコーポレーションの前身の鈴木勝次郎商店が開設した、現存する行田で最も古い大規模足袋工場（現在は 被服工場）です。

工場内には、大正6年建設のノコギリ蔵根を持つ木造洋風工場、大正7年4月建設の旧事務所、昭和13年12月建設のコンクリート製の足袋蔵などがあり、戦前の大規模足袋工場の面影を良く留めています。



伊勢産業株式会社足袋蔵保存会  
埼玉県行田市の足袋蔵保存会事務局



### ⑧イサミスクール工場

伊勢産業株式会社足袋蔵保存会

明治42年、行田市に設立された伊勢産業株式会社は、足袋の製造販売を主業として発展してきました。戦前には、行田市に大規模な足袋工場を建設し、足袋の生産を拡大しました。この工場は、伊勢産業株式会社の前身である鈴木勝次郎商店が開設したもので、現在も残っています。この工場は、大正6年建設のノコギリ蔵根を持つ木造洋風工場、大正7年4月建設の旧事務所、昭和13年12月建設のコンクリート製の足袋蔵などがあり、戦前の大規模足袋工場の面影を良く留めています。

## ⑧足袋工場



## ⑧足袋工場








# tabigura megori ⑧ イサミスクール工場



 イサミスクール工場

この工場はイサミコーポレーションの前身の鈴木勝次郎商店が開設した、現存する行田で最も古い大規模足袋工場（現在は被服工場）です。

工場内には、大正6年建設のノギリ屋根を持つ木造洋風工場、大正7年4月建設の旧事務所、昭和13年12月建設のコンクリート製の足袋蔵などがあり、戦前の大規模足袋工場の面影を良く留めています。

©2019 伊勢米穀株式会社  
伊勢米穀株式会社 伊勢米穀株式会社

⑧イサミスクール工場  
ノギリ屋根の木造洋風工場が特徴の、最も歴史のある大規模足袋工場。

## イサミスクール工場







# tabigura megori ⑨ イサミ足袋工場



↑

イサミ足袋工場



この工場は、現存する行田最大のノコギリ屋根の木造洋風足袋工場です。正確な建築年代は不明ですが、昭和初期に組合工場として建てられたものを、イサミコーポレーションの前身の合名会社イサミ足袋本舗が買い取り、現在まで 足袋工場として使用しています。個人商店から企業へと発展したこの時期の行田の足袋産業を象徴する、住居地から独立した大規模足袋工場です。

2017年11月撮影。写真：伊藤誠一（イサミコーポレーション）

## ⑨ イサミ足袋工場



### ⑨ イサミ足袋工場

昭和初期のイサミ、根の足袋工場

伊サミコーポレーションの前身の合名会社イサミ足袋本舗が、正真正正に買い取り、大規模な工場として建てられた。この工場は、昭和初期に組合工場として建てられたものを、イサミコーポレーションの前身の合名会社イサミ足袋本舗が買い取り、現在まで 足袋工場として使用しています。個人商店から企業へと発展したこの時期の行田の足袋産業を象徴する、住居地から独立した大規模足袋工場です。

この工場は、現存する行田最大のノコギリ屋根の木造洋風足袋工場です。正確な建築年代は不明ですが、昭和初期に組合工場として建てられたものを、イサミコーポレーションの前身の合名会社イサミ足袋本舗が買い取り、現在まで 足袋工場として使用しています。個人商店から企業へと発展したこの時期の行田の足袋産業を象徴する、住居地から独立した大規模足袋工場です。

## ⑨ イサミ足袋工場



⑨ イサミ足袋工場





# tabigura megori ⑨ イサミ足袋工場



⑨ イサミ足袋工場

↑

イサミ足袋工場

この工場は、現存する行田最大のノコギリ屋根の木造洋風工場です。  
 正確な建築年代は不明ですが、昭和初期に組合工場として建てられたものを、イサミコーポレーションの前身の合名会社イサミ足袋本舗が買い取り、現在まで 足袋工場として使用しています。  
 個人商店から企業へと発展したこの時期の行田の足袋産業を象徴する、住居地から独立した大規模足袋工場です。

伊サミコーポレーション株式会社  
〒300-0001 茨城県行田市本町1-1-1

⑨イサミ足袋工場  
ノコギリ屋根の木造洋風工場が特徴の、最も歴史のある大規模足袋工場。



⑨ イサミ足袋工場



イサミコーポレーション



⑨ イサミ足袋工場



イサミコーポレーション  
株式会社  
イサミコーポレーション





# tabigura megori ⑩ 奥貫蔵



**奥貫蔵**

足袋蔵の歴史を伝える足袋蔵

**奥貫蔵**

この奥貫蔵は、足袋蔵の歴史を伝える足袋蔵として、平成10年に建てられました。この奥貫蔵は、足袋蔵の歴史を伝える足袋蔵として、平成10年に建てられました。この奥貫蔵は、足袋蔵の歴史を伝える足袋蔵として、平成10年に建てられました。この奥貫蔵は、足袋蔵の歴史を伝える足袋蔵として、平成10年に建てられました。

## ⑩ 奥貫蔵



足袋蔵 MAP



## ⑩ 奥貫蔵





route 足袋蔵 B **tabigura meguri ⑩ 奥貫蔵**



昭和55.5.24  
**奥貫蔵**  
 この間口9間・奥行3間の2階建ての土蔵は、「ほうらい足袋」の商標で知られた奥貫家が、大正～昭和の初め頃に建設したと伝えられる足袋蔵です。  
 『ほうらい足袋』の三代目奥貫秀三郎は、奥貫3兄弟の末弟として知られ、『行田足袋研究会』の幹事として、足袋産業の発展に尽くした功労者でした。  
 全盛期の行田の足袋産業の隆盛を象徴する大型で重厚な足袋蔵です。  
行田ふるさと文化財団 足袋蔵めぐり







# tabigura meguri ⑪ 大澤蔵



↑

## 大澤蔵

「花形足袋、大澤商店の7代専蔵によって大正15年に建てられた、間口4.5間・奥行2.5間の2階建ての文庫蔵です。行田唯一のレンガ蔵で、外面には登り窯で焼きされた焼通レンガが、ていねいに積まれています。黒目のレンガと白い漆喰の対比がモダンな印象を与えます。内部も贅を尽くした造りとなっており、「建築が第一の趣味、であった7代専蔵のこだわりが感じられます。」

大澤蔵は、大澤商店の7代専蔵によって大正15年に建てられた、間口4.5間・奥行2.5間の2階建ての文庫蔵です。

## ⑪ 大澤蔵



## ⑪ 大澤蔵



大澤蔵は、江戸時代に行田の豪商大澤商店の7代専蔵によって大正15年に建てられた、間口4.5間・奥行2.5間の2階建ての文庫蔵です。行田唯一のレンガ蔵で、外面には登り窯で焼きされた焼通レンガが、ていねいに積まれています。黒目のレンガと白い漆喰の対比がモダンな印象を与えます。内部も贅を尽くした造りとなっており、「建築が第一の趣味、であった7代専蔵のこだわりが感じられます。」

大澤蔵は、江戸時代に行田の豪商大澤商店の7代専蔵によって大正15年に建てられた、間口4.5間・奥行2.5間の2階建ての文庫蔵です。行田唯一のレンガ蔵で、外面には登り窯で焼きされた焼通レンガが、ていねいに積まれています。黒目のレンガと白い漆喰の対比がモダンな印象を与えます。内部も贅を尽くした造りとなっており、「建築が第一の趣味、であった7代専蔵のこだわりが感じられます。」





# tabigura megori ⑪ 大澤蔵



## 大澤蔵



⑪大澤蔵  
関東大震災の教訓から、大澤商店が大正15年に建設した  
行田で唯一のレンガ蔵（文庫蔵）です。



## 大澤蔵



## 大澤蔵

「花形足袋」大澤商店の7代専蔵によって  
大正15年に建てられた、間口4.5間・奥  
行2.5間の2階建ての文庫蔵です。  
行田唯一のレンガ蔵で、外面には登り  
窯で手焼きされた焼通レンガが、ていね  
いに積まれています。黒目のレンガと白い  
漆喰の対比がモダンな印象を与えます。  
内部も贅を尽くした造りとなっており、  
「建築が第一の趣味」であった7代専蔵の  
こだわりが感じられます。



## 大澤蔵



## 大澤蔵

⑪大澤蔵  
関東大震災の教訓から  
大澤商店が大正15年  
に建設した行田で唯一  
のレンガ蔵（文庫蔵）  
です。





# Route 12 足袋蔵めぐり ⑫ 足袋蔵ギャラリー”門”



足袋蔵ギャラリー”門”  
クチキ建築設計事務所



足袋蔵ギャラリー”門”とクチキ建築設計事務所は、共に「米冠足袋」の商標で知られた奥買家の足袋蔵として、大正5年に建てられました。

特に右側の建築設計事務所は、間口4.5間・奥行3間の行田唯一の3階建ての土蔵で、元は黒壁でした。

左側の間口4間・奥行3間のギャラリーでは、不定期ながら絵画展やコンサートなどの催しが開かれています。

©2019 奥買家米冠足袋株式会社  
株式会社クチキ建築設計事務所



## ⑫ 門クチキ



足袋蔵 MAP



## ⑫ クチキ門

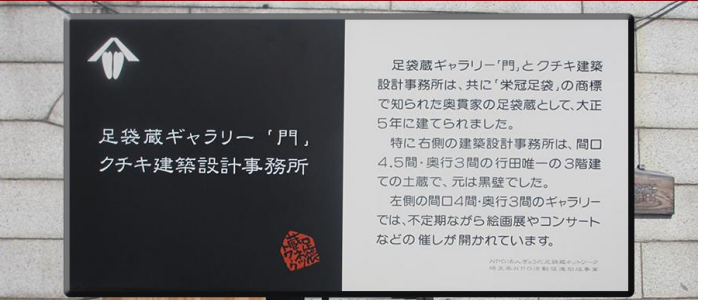


足袋蔵ギャラリー”門”とクチキ建築設計事務所は、共に「米冠足袋」の商標で知られた奥買家の足袋蔵として、大正5年に建てられました。特に右側の建築設計事務所は、間口4.5間・奥行3間の行田唯一の3階建ての土蔵で、元は黒壁でした。左側の間口4間・奥行3間のギャラリーでは、不定期ながら絵画展やコンサートなどの催しが開かれています。



route  
足袋蔵  
B

# tabigura meguri ⑫ 足袋蔵ギャラリー”門”



⑫足袋蔵ギャラリー 門  
大正5年建設の足袋蔵を改装したギャラリー。  
不定期ですがイベント等が開催されています。

足袋蔵ギャラリー”門”クチキ建築設計事務所



足袋蔵ギャラリー”門”クチキ建築設計事務所





Route  
尾道蔵  
C

# tabigura meguri ⑬ 孝子蔵



## 孝子蔵



この、開口4間・奥行2.5間の大谷石の石蔵は、孝子足袋の商標で知られた大木末吉商店が、昭和26年に城下町特有の細長い敷地の一番奥に建てた、小型ですが均整のとれた足袋蔵です。木材不足から戦後行田では、こうした大谷石の足袋蔵が多く建てられました。主柱を持たずに大谷石を積み上げて壁を造り、その上に屋根を乗せているのが特徴で、窓の引き戸も大谷石です。

大木末吉商店 尾道蔵 孝子蔵



大木末吉商店は「孝子たび」の商標で知られています。

## ⑬ 孝子蔵







# tabigura megori

## 孝子蔵



⑬孝子蔵  
大木末吉商店が昭和26年に棟上げした  
木材不足で大矢石を積み重ねて造った  
石蔵、戦後の行田を代表する足袋蔵の一つです。



## 孝子蔵

この、間口4間・奥行2.5間の大谷石の石蔵は、孝子足袋の商標で知られた大木末吉商店が、昭和26年に城下町特有の細長い敷地の一番奥に建てた、小型ですが均整のとれた足袋蔵です。  
木材不足から戦後行田では、こうした大谷石の足袋蔵が多く建てられました。主柱を持たずに大谷石を積み上げて壁を造り、その上に屋根を乗せているのが特徴で、窓の引き戸も大谷石です。



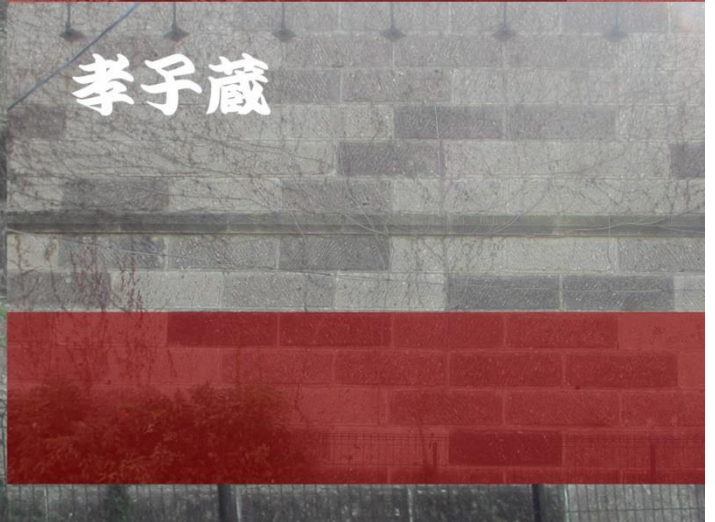
1977年4月22日撮影  
大木末吉商店蔵

## 孝子蔵



⑬孝子蔵  
大木末吉商店が昭和26年に棟上げした  
木材不足で大矢石を積み重ねて造った  
石蔵、戦後の行田を代表する足袋蔵の一つです。

## 孝子蔵





Route  
足袋蔵  
B

# tabigura meguri 14 武蔵野銀行



足袋のまちを歩く 高田の建物

武蔵野銀行 行田支店

足袋蔵MAP

武蔵野銀行は、昭和10年（1935年）に設立された。当時は、足袋のまちである足袋（現・伊豆市）に本店を置き、足袋のまちの発展を支援するために活動していた。その後、戦時体制下で足袋のまちの発展が停滞したため、戦後、東京に本店を移転し、全国に展開した。現在は、足袋のまちに本店を戻し、足袋のまちの発展を支援するために活動している。

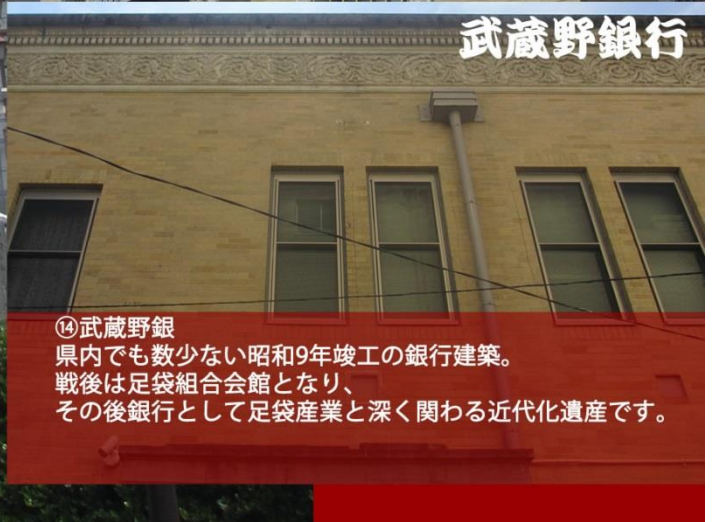
武蔵野銀行は、足袋のまちの発展を支援するために、様々な取り組みを行っている。例えば、足袋のまちの歴史を伝えるための展示や、足袋のまちの魅力を伝えるための観光案内などがある。また、足袋のまちの発展を支援するために、様々な事業を行っている。例えば、足袋のまちの歴史を伝えるための展示や、足袋のまちの魅力を伝えるための観光案内などがある。

武蔵野銀行は、足袋のまちの発展を支援するために、様々な取り組みを行っている。例えば、足袋のまちの歴史を伝えるための展示や、足袋のまちの魅力を伝えるための観光案内などがある。また、足袋のまちの発展を支援するために、様々な事業を行っている。例えば、足袋のまちの歴史を伝えるための展示や、足袋のまちの魅力を伝えるための観光案内などがある。



route  
足袋蔵  
B

# tabigura meguri ⑭ 武蔵野銀行



⑭ 武蔵野銀  
県内でも数少ない昭和9年竣工の銀行建築。  
戦後は足袋組合会館となり、  
その後銀行として足袋産業と深く関わる近代化遺産です。





# Route 15 足袋蔵 **tabigura meguri** ⑮ 足袋博物館



## ⑬ 牧野本店



足袋蔵 MAP

**足袋蔵の歴史とTabigura博物館**

**牧野本店**

【足袋とくらしの博物館】  
 開館日 土、日、月  
 開館時間 10:00-18:00  
 〒110 0001 東京都千代田区千代田 1-1-1  
 入館料 大人200円 小学生100円

足袋蔵の歴史は、江戸時代から続く。足袋は、日本の伝統的な履物であり、その文化を伝えるために、足袋蔵が設立された。足袋蔵は、足袋の歴史、文化、製作過程などを展示し、体験できる施設である。また、足袋蔵には、足袋の専門店や、足袋の生地を扱う店などがあり、足袋の魅力を堪能できる。足袋蔵は、足袋の文化を伝えるだけでなく、地域の活性化にも貢献している。足袋蔵は、足袋の文化を伝えるだけでなく、地域の活性化にも貢献している。足袋蔵は、足袋の文化を伝えるだけでなく、地域の活性化にも貢献している。

## ⑮ 牧野本店 足袋とくらしの博物館








# Route 15 Tabigura Meguri 足袋博物館



足袋とくらしの博物館・牧野本店



**牧野本店**

大正13年頃に建てられた豪勢な店蔵、大正11年棟上の木造洋風工場、明治～大正期の足袋蔵専土蔵3棟が残る牧野本店は、全盛期の行田の足袋商店の様子を伝える貴重な建物群です。現在工場部分を、NPO法人「ぎょうだ足袋ネットワーク」が「足袋とくらしの博物館」として土・日・祝日に公開しており、足袋の製造実演や行田足袋の歴史の展示が見学できます。

〒320-0101 栃木県宇都宮市東区大田町1-1-1  
TEL 028-252-1111

足袋とくらしの博物館・牧野本店




3201






# tabigura meguri 16 時田蔵





## 時田蔵



丁字路の突き当たりにあるこの土蔵は、「かるた足袋」などの商標で知られた時田啓左衛門商店の足袋蔵です。

残念ながら建築年代は不明ですが行田では珍しい、表通りに面した袖蔵形式の土蔵で、この奥にも明治36年に建てられた足袋蔵が連なっています。

左側の昭和15～16年頃に建てられた住宅と共に、行田の足袋産業全盛期の面影を残す貴重な建物群と言えます。

2017年度ふるさと文化探検隊ふたば町・時田蔵と町中の活動写真展開催事業



### 時田蔵

時田啓左衛門商店の足袋蔵

「かるた足袋」の商標で知られた時田啓左衛門商店の足袋蔵です。残念ながら建築年代は不明ですが行田では珍しい、表通りに面した袖蔵形式の土蔵で、この奥にも明治36年に建てられた足袋蔵が連なっています。左側の昭和15～16年頃に建てられた住宅と共に、行田の足袋産業全盛期の面影を残す貴重な建物群と言えます。

## 16 時田蔵



## 16 時田蔵





route  
足袋蔵  
D

# tabigura megori 16 時田蔵



時田蔵

↑

## 時田蔵

↑

T字路の突き当たりにあるこの土蔵は、'かるた足袋'などの商標で知られた時田密左衛門商店の足袋蔵です。

残念ながら建築年代は不明ですが行田では珍しい、表通りに面した袖蔵形式の土蔵で、この奥にも明治36年に建てられた足袋蔵が連なっています。

左側の昭和15~16年頃に建てられた住宅と共に、行田の足袋産業全盛期の面影を残す貴重な建物群と言えます。

時田密左衛門商店の足袋蔵群の一角として  
指定された行田市指定文化財

時田蔵



時田蔵



時田蔵





# tabigura megori 17 牧禎舎



足袋蔵歴史のまち

## 牧 禎 舎

「傘」の商標で知られた牧禎商店が、創業時の昭和15年に建設した木造2階建ての事務所兼住宅と工場です。事務所兼住宅は、落ち着いた佇まいの住宅建築で、原形を良く留めています。  
現在はNPO法人ぎょうだ足袋蔵ネットワークによって、藍染体験の出来る大人の寺子屋「牧禎舎」として再活用されています。

平成22年3月

行田市観光委員会

## 17 牧禎舎



足袋蔵 MAP



「傘」の商標で知られた牧禎商店が、創業時の昭和15年に建設した木造2階建ての事務所兼住宅と工場です。事務所兼住宅は、落ち着いた佇まいの住宅建築で、原形を良く留めています。現在はNPO法人ぎょうだ足袋蔵ネットワークによって、藍染体験の出来る大人の寺子屋「牧禎舎」として再活用されています。

## 17 牧禎舎







# tabigura meguri ⑰ 牧禎舎



牧禎舎

足袋蔵歴史のまち

牧 禎 舎

「倉」の商標で知られた牧禎商店が、創業時の昭和15年に建設した木造2階建ての事務所兼住宅と工場です。事務所兼住宅は、落ち着いた行まいの住宅建築で、原形を良く留めています。

現在は NPO 法人 ぎょうだ足袋蔵ネットワークによって、藍染体験の出来る大人の寺子屋「牧禎舎」として再活用されています。

平成22年3月 株式会社 足袋蔵



牧禎舎  
(藍染体験)



⑰ 牧禎舎  
昭和15年に建設した足袋・被服の製造を行っていた牧禎商店木造二階建ての事務所兼住宅と工場。現在は藍染体験、テイストシェア工房です。



route  
足袋蔵  
D

# tabigura meguri ⑱ 忠次郎蔵



**国登録有形文化財**  
**旧小川忠次郎商店店舗及び主屋**  
 平成十六年七月二十三日登録  
 この店蔵は、足袋の原料を商っていた小川忠次郎商店の店舗及び主屋として昭和四年（一九二九）頃に完成した（大正十四年（一九二五）十一月七日棟上）、行田の足袋産隆盛期を象徴する近代化遺産です。  
 店舗部分は切妻造、土蔵造の2階建、主屋部分は寄棟造、2階建て、北面と西面の壁を漆喰で塗り込めた、北風を意識した行田特有の防火的なつくりとなっています。  
 内部1階は店舗部分の土間をもつミセから主屋部分のナカノマ、オケと縦1列に並べる間取りで、2階に格式の高い座敷を設けています。  
 なお、こつしな構造は他の行田の店蔵にも共通しています。

行田商工会議所  
 行田市教育委員会



## ⑱ 忠次郎蔵



## ⑱ 忠次郎蔵

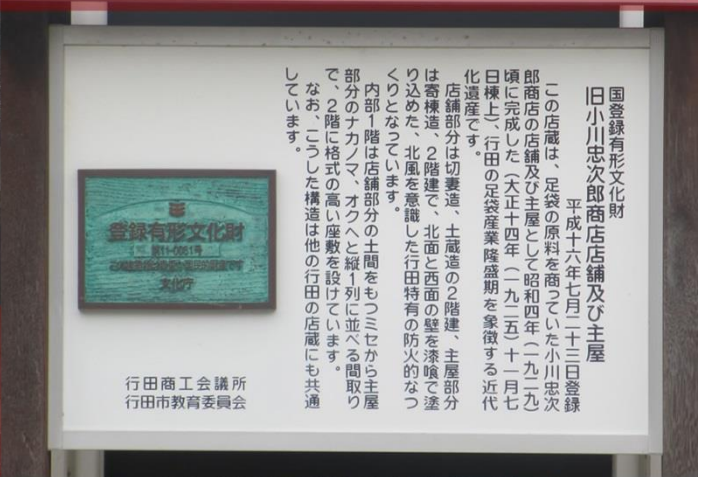


この建物は、昭和四年（一九二九）頃に完成した（大正十四年（一九二五）十一月七日棟上）、行田の足袋産隆盛期を象徴する近代化遺産です。店舗部分は切妻造、土蔵造の2階建、主屋部分は寄棟造、2階建て、北面と西面の壁を漆喰で塗り込めた、北風を意識した行田特有の防火的なつくりとなっています。内部1階は店舗部分の土間をもつミセから主屋部分のナカノマ、オケと縦1列に並べる間取りで、2階に格式の高い座敷を設けています。なお、こつしな構造は他の行田の店蔵にも共通しています。





忠次郎蔵



忠次郎蔵



忠次郎蔵







# route 19 tabigura meguri 行田窯



荒井八郎商店は「穂国(ほこく)足袋」の商標で知られています。

## ⑩ 行田窯




**行田窯**  
足袋蔵を再利用した  
陶芸工房

荒井八郎商店が昭和の初めに建設した木造の足袋原反倉庫(足袋蔵)を再利用した陶芸工房です。工房なのでやや雑然としていますが、中央に柱のない足袋蔵ならではの広いスペースに、お皿やカップなど様々な陶芸作品が並べられています。

開館日が限られていますので、ご注意ください。

a.or.jp

## ⑩ 行田窯



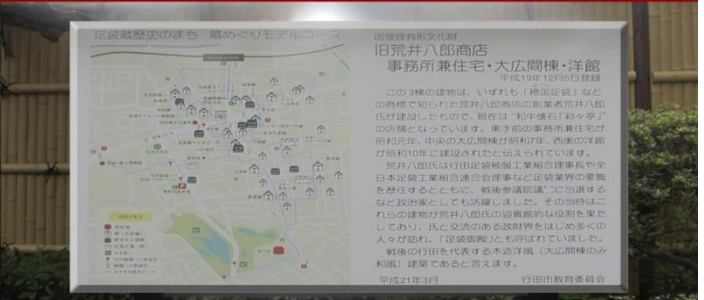




# tabigura meguri ②0 彩々亭



彩々亭



彩々亭



彩々亭



彩々亭

②0和牛懐石「彩々亭」  
昭和初期に建てられた事務所兼住宅・大広間棟・洋館。  
荒井八郎商店の創業者荒井八郎氏が建設したもので当時は  
迎賓館的な役割を果たし「足袋御殿」と呼ばれていました。



彩々亭

②0和牛懐石「彩々亭」  
昭和初期に建てられた事務所兼住宅・大広間棟・洋館。  
荒井八郎商店の創業者荒井八郎氏が建設したもので当時は  
迎賓館的な役割を果たし「足袋御殿」と呼ばれていました。



荒井八郎商店は「穂国(ほこく)足袋」の商標で知られています。





# tabigura meguri 20 彩々亭




月曜定休 (祝祭日は営業)  
 営業時間 11:00~15:00 17:00~22:00  
 (土曜・日曜・祝祭日は11:00~22:00)  
 TEL 048-553-4311 FAX 048-553-4286  
[www.saisaitei.jp](http://www.saisaitei.jp)

和牛懐石 彩々亭  
 (旧荒井八郎商店事務所)  
 業主屋・大広間棟・洋館  
 昭和天皇も訪れた「足袋御殿」を改装した料亭

足袋屋の小僧から身を起こし、力と押し世渡りて一代にして財を成し、参議院議員にまで登りつめた荒八こと荒井八郎が、昭和元年・7年・10年の3回に渡って建設した住宅兼事務所を、約100年前に改装した懐石料亭です。かつて「足袋御殿」と呼ばれた贅をつくした建物の中で、美しい庭を眺めながら味わう和牛つくし懐石は絶品です。

国登録有形文化財







# tabigura meguri ②0 彩々亭



彩々亭



彩々亭



彩々亭



彩々亭

②0和牛懐石「彩々亭」  
昭和初期に建てられた事務所兼住宅・大広間棟・洋館。  
荒井八郎商店の創業者荒井八郎氏が建設したもので当時は  
迎賓館的な役割を果たし「足袋御殿」と呼ばれていました。



彩々亭

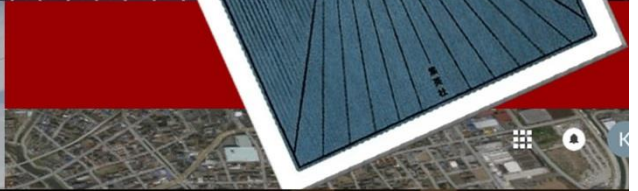
②0和牛懐石「彩々亭」  
昭和初期に建てられた事務所兼住宅・大広間棟・洋館。  
荒井八郎商店の創業者荒井八郎氏が建設したもので当時は  
迎賓館的な役割を果たし「足袋御殿」と呼ばれていました。



荒井八郎商店は「穂国(ほこく)足袋」の商標で知られています。



# tabigura meguri ② 陸王





route  
足袋蔵  
A

# tabigura megori a 蔵並み



b 蔵倉庫：国道125号線の裏通り。



国道125号線通りから裏通りへ



route  
足袋蔵  
A

# tabigura megori (b) 蔵倉庫







# tabigura meguri 蔵一軒家



c 蔵一軒家：国道125号線の奥通り。




行田市駅方面 県道77号線通り




route  
足袋蔵  
A

# tabigura meguri d 石蔵



d 蔵の顔：国道125号線の奥通り。



d 蔵の顔：国道125号線の奥通り。







# tabigura meguri ⑧ 足袋蔵参り



e 蔦母栖倉庫：県道77号線の脇通り。



足袋蔵参り

e 行田八幡神社：県道77号線の脇通り。



郵便局脇通り

足袋蔵歴史のまち

助





# tabigura megori f 奥の足袋蔵



f 奥の足袋蔵の顔



県道77号線脇 公園





# tabigura meguri ⑨ ロマノの医院



g 田代医院



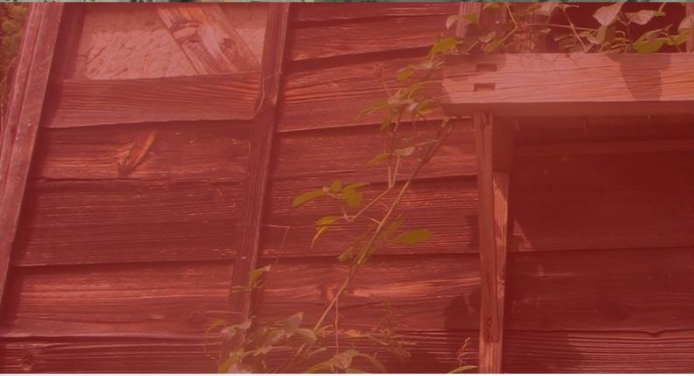
足袋蔵歴史のまち

県道77号線脇 イサミ足袋工場通り



route  
足袋蔵  
B

# tabigura meguri h 和洋住宅







# tabigura megori 小沼蔵

## 小沼蔵



(i) 昭和29年、豊年足袋本俵が建設した足袋蔵。  
戦後の振興足袋商店の台頭を象徴する  
均整の取れた末期の蔵です。

足袋蔵歴史のまち

## 小沼蔵

この間口6間、奥行3間の2階建ての石蔵は、「豊年足袋」等の商標で知られた株式会社豊年足袋本俵が、昭和29年に建設した足袋蔵です。

基礎に長さ10尺の松杭を千鳥に打ち込み、杭頭に大谷石を立ててその周囲をコンクリートで固めるなど、堅固な基礎工事を行っていることが特徴です。

戦後の新興足袋商店の台頭を象徴する均整の取れた最末期の足袋蔵です。

平成24年3月

行田市教育委員会

(i) 昭和29年、豊年足袋本俵が建設した足袋蔵。  
戦後の振興足袋商店の台頭を象徴する  
均整の取れた末期の蔵です。



県道77号線 路地



足袋蔵歴史のまち





# tabigura meguri **j** 苔蒸蔵



j 苔蒸蔵 国道125号線の奥通り。

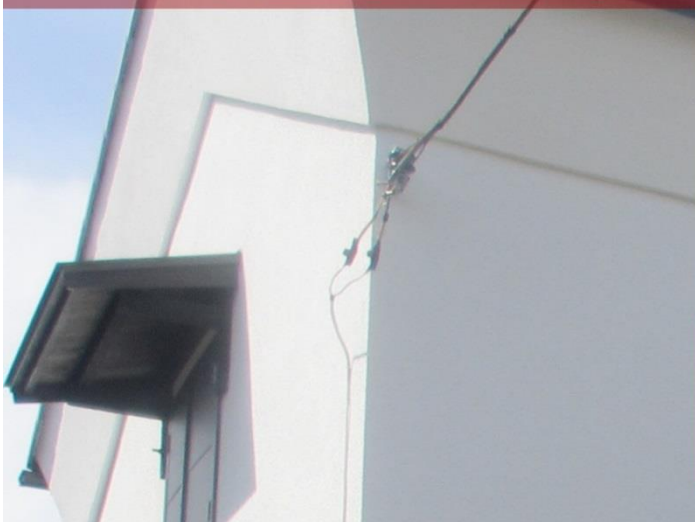


j 苔蒸蔵 国道125号線の奥通り。





# Route B 足袋蔵 **tabigura meguri** 漆喰の蔵



k 漆喰の蔵 県道77号線の脇通り。



県道77号線を行田市駅方面へ



Route  
足袋蔵  
B

# tabigura meguri ① 草生蔵



草生蔵



県道77号線通り



足袋蔵歴史のまち





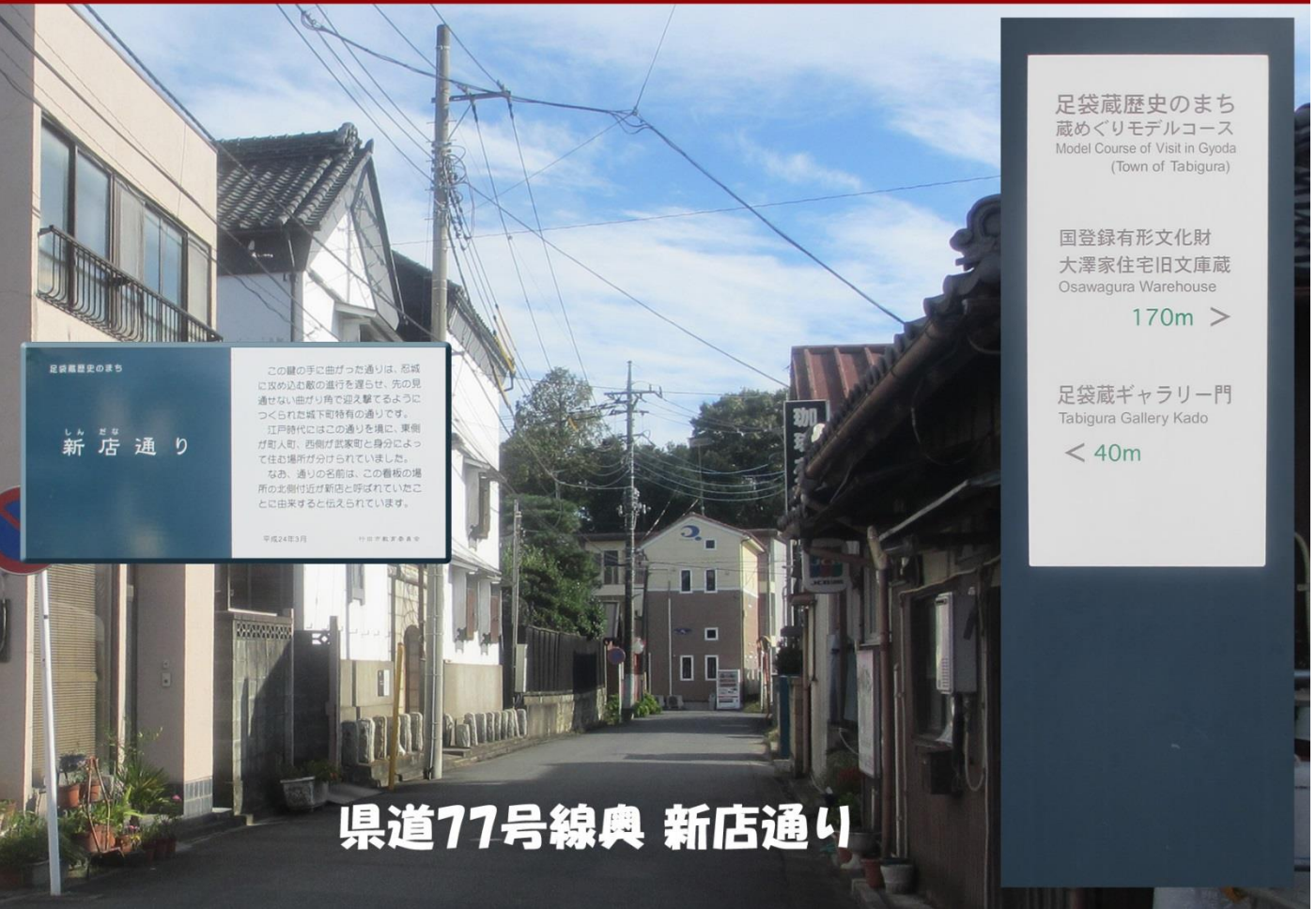
# tabigura megori m 剥離蔵



m 剥離蔵の顔



m 剥離蔵の顔



足袋蔵歴史のまち  
蔵めぐりモデルコース  
Model Course of Visit in Gyoda  
(Town of Tabigura)

国登録有形文化財  
大澤家住宅旧文庫蔵  
Osawagura Warehouse

170m >

足袋蔵ギャラリー門  
Tabigura Gallery Kado

< 40m

足袋蔵歴史のまち

しん ぶな  
新店通り

この蔵の手に曲がった通りは、形蔵に攻め込む敵の進軍を遅らせ、先の見逃せない曲がり角で迎撃できるようにつくられた城下町特有の通りです。  
江戸時代にはこの通りを境に、東側が町人町、西側が武家町と身分によって住む場所が分かれていました。  
なお、通りの名前は、この看板の場所の北側付近が新店と呼ばれていたことに由来すると伝えられています。

平成24年3月

竹田市観光委員会

県道77号線奥 新店通り





# tabigura meguri 松坂屋蔵

松坂屋蔵



足袋蔵歴史のまち

松坂屋蔵

この間口3間半、奥行4間半の2階建てのモルタル蔵は、戦後まもなく創業した松坂屋建材株式会社で、昭和24~25年頃に建設した倉庫です。熊谷にあった軍事施設のボイラー室を解体し、その建材を再利用して建てられています。頑丈な造りの均整の取れた蔵で、現在も同社の倉庫として使用されています。

平成24年3月 行田市教育委員会

松坂屋蔵



県道77号線 右脇方面へ

足袋蔵歴史のまち  
蔵めぐりモデルコース  
Model Course of Visit in Gyoda  
(Town of Tabigura)

国登録有形文化財  
大澤家住宅旧文庫蔵  
Osawagura Warehouse  
170m >

足袋蔵ギャラリー門  
Tabigura Gallery Kado  
< 40m



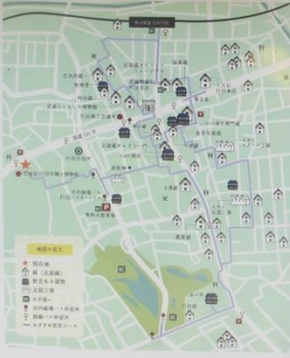


tabigura megori

# 行田市駅方面



足袋蔵歴史のまち 蔵めぐりモデルコース



足袋蔵のまち行田へようこそ  
足袋蔵と行田市の近代化遺産

行田市は江戸時代中頃から足袋づくりが大変盛んで、最盛期の昭和13年には年産約8500万足、全国シェアの約8割の足袋を生産する「日本一の足袋のまち」として繁栄していました。市中心部には、足袋蔵と呼ばれる足袋の商品倉庫を中心に、その栄華を伝える洋風足袋工場、北側～西側だけを蔵造りにした行田独特の店蔵や住宅など、足袋産業関連の近代化遺産が数多く残されています。

近年行田市では、こうした近代化遺産の保存が進められており、武蔵野銀行行田支店店舗、十萬石ふくさや行田本店店舗、大澤家旧文庫蔵などが国登録有形文化財に登録されています。また、忠次郎蔵、彩々亭、足袋蔵まちづくりミュージアム、足袋とくらしの博物館などさまざまな形での再活用も行われています。

平成22年3月

行田市教育委員会



足袋蔵歴史のまち

行田市駅方面 県道77号線通り





# tabigura meguri **P**和風住宅



県道77号線奥通り



p 和風住宅 行田市商工センター前



p 和風住宅 行田市商工センター前





# tabigura megori ⑨ 時田足袋蔵

## 時田足袋蔵



足袋蔵歴史のまち

この間口8間、奥行3間の土蔵は、「かるた足袋」、「桜都足袋」などの商標で知られた時田啓左衛門商店が昭和4年に棟上した足袋専用倉庫です。

時田啓左衛門商店は、明治28年(1895)に創業し、山形・宮城・山梨県を中心に販路を伸ばして成功を収め、この大型の足袋蔵を建設しました。

昭和初期の行田足袋産業全盛期の面影を伝える近代化遺産と言えます。

平成23年 行田市観光委員会

### 時田足袋蔵



足袋蔵歴史のまち

この通り沿いは、かつて蓮華寺町と呼ばれた蓮華寺の門前町です。

江戸時代に忍城主阿部正武が小見から蓮華寺を移し、松平家が忍城主になると、通りの両側に武家屋敷が造成されて、蓮華寺町は誕生しました。

明治時代以降は足袋産業が進出し、昭和初期には足袋蔵や足袋職人長屋が軒を連ねるようになりました。今でもその頃の面影が感じられる通りです。

平成23年 行田市観光委員会

### 蓮華寺通り

県道77号線奥 蓮華寺通り





# tabigura megori 足袋の石蔵



足袋の石蔵

r 石蔵 行田市駅 左方向通り



石蔵の顔



足袋蔵歴史のまち

足袋蔵歴史のまち  
蔵めぐりモデルコース  
Model Course of Visit in Gyoda  
(Town of Tabigura)  
  
国登録有形文化財  
旧小川忠次郎商店  
店舗及び主屋  
(忠次郎蔵)  
Formerly Osaka Chujiro Shoten  
(Chujiro Warehouse)  
↑ 180m  
  
行田市駅  
Gyoda-shi Station  
← 250m

行田市駅路地 足袋蔵巡りの入口



# tabigura megori 県道77号線



足袋蔵歴史のまち 蔵めぐりモデルコース

足袋蔵のまち行田へようこそ  
足袋蔵と行田市の近代化遺産

行田市は江戸時代中頃から足袋づくりが大変盛んで、最盛期の昭和13年には年産約8500万足、全国シェアの約8割の足袋を生産する「日本一の足袋のまち」として繁栄していました。市中心部には、足袋蔵と呼ばれる足袋の商品倉庫を中心に、その栄華を伝える洋風足袋工場、北側～西側だけを蔵造りにした行田独特の店蔵や住宅など、足袋産業関連の近代化遺産が数多く残されています。

近年行田市では、こうした近代化遺産の保存が進められており、武蔵野銀行行田支店店舗、十方石ふくさや行田本店店舗、大澤家旧文庫蔵などが国登録有形文化財に登録されています。また、忠次郎蔵、彩々亭、足袋蔵まちづくりミュージアム、足袋とくらしの博物館などさまざまな形での再活用も行われています。

平成22年3月 行田市教育委員会



足袋蔵歴史のまち

足袋蔵歴史のまち  
蔵めぐりモデルコース  
Model Course of Visit in Gyoda  
(Town of Tabigura)

足袋蔵まちづくり  
ミュージアム  
(行田市観光ガイドステーション)  
Museum of Tabigura and  
Community Development  
250m →

国登録有形文化財  
旧小川忠次郎商店  
店舗及び主屋  
(忠次郎蔵)  
Formerly Ogawa Chujiro Shoten  
(Chujirogura Warehouse)  
390m ↘

行田市駅前 県道77号線通り



# tabigura meguri 県道77号線



足袋蔵歴史のまち

**ぎょうだ歴史ロマンの道**  
Gyoda Historical Road

忍城址・行田市郷土博物館  
Ohi Castle Site And Local History Museum

1km

旧荒井八郎商店事務所兼主屋・300m  
大広間棟・洋館 (彩々亭)  
Kyuu Arai Hachiroju Shoinen

“ぎょうだ歴史・文化の旅”コース

**足袋蔵と行田市の近代化遺産**

足袋蔵は江戸時代中期から足袋づくりが大盛況で、最盛期の昭和13年には年間約8500万足、全国シェアの約8割の足袋を生産する“日本一の足袋のまち”として繁栄していました。市中心部には、足袋蔵と呼ばれる足袋の高京倉庫を中心に、その栄華を伝える洋風足袋工場、北側～西側には蔵造りにした行田独特の店蔵や住宅など、足袋産業関連の近代化遺産が数多く残されています。

近年行田市では、こうした近代化遺産の保存・活用がめられており、武蔵野銀行行田支店店舗、十万石みくきや行田本店店舗、大澤家旧文庫蔵などが国登録有形文化財に登録されています。また、忠次郎蔵、彩々亭、足袋蔵まちづくりミュージアム、足袋とくらしの博物館などさまざまな形で再活用も行われています。

平成22年3月 行田市教育委員会

足袋蔵のまち行田へようこそ

**足袋蔵と行田市の近代化遺産**

足袋蔵は江戸時代中期から足袋づくりが大盛況で、最盛期の昭和13年には年間約8500万足、全国シェアの約8割の足袋を生産する“日本一の足袋のまち”として繁栄していました。市中心部には、足袋蔵と呼ばれる足袋の高京倉庫を中心に、その栄華を伝える洋風足袋工場、北側～西側には蔵造りにした行田独特の店蔵や住宅など、足袋産業関連の近代化遺産が数多く残されています。

近年行田市では、こうした近代化遺産の保存・活用がめられており、武蔵野銀行行田支店店舗、十万石みくきや行田本店店舗、大澤家旧文庫蔵などが国登録有形文化財に登録されています。また、忠次郎蔵、彩々亭、足袋蔵まちづくりミュージアム、足袋とくらしの博物館などさまざまな形で再活用も行われています。

平成22年3月 行田市教育委員会

県道77号線を行田市駅方面へ